

## モノ学の冒険(鎌田東二)

本書は、『モノ学・感覚価値研究会』<sup>\*</sup>の研究成果を書籍にまとめたものの第一弾。

\*2006年4月21日付けで、日本学術振興会科学研究費補助金交付に採択された「モノ学の構築—もののあはれから貫流する日本文明のモノ的創造力と感覚価値を検証する」を研究し、「モノ」と「感覚価値」をあらゆる角度と発想から考察し、表現してゆく“アヴァンギャルドな研究会” <<http://homepage2.nifty.com/mono-gaku/>>

### 研究年報『モノ学・感覚価値研究』発刊の辞(抜粋)

\*\*\*\*\*

「もの」とか「こと」という言葉は日常言語の中でも特に頻繁に使われる基本語である。それらを使わずには会話や文章が成り立たない。しかし立ち止まって、この「もの」とは何かと問いかけてみると、これが実に多彩・多様・多義・多面的な言葉であることがわかる。一筋縄ではいかない。簡潔に言えば、物質性としての「物」から人間性としての「者」を経て、霊性としての「霊(もの)」にまで至る多次元的なグラデーションを持っている。それは自然科学から人間科学、宗教学までを包摂する根本概念となるものだ。

その「モノ学」を探究してみよう。ものを知り、ものを使い、ものを食べ、ものを語る人間の営みの総体を探究してみよう。それが「モノ学」の発端となる。この「もの」はしかし、ニュートラルな物質にとどまるものではない。そこには常に、ものにまつわる感情や価値観が波打っている。ものはわたしたちに「もののあはれ」を喚起せしめる。その「もののあはれ」を「感覚価値」と呼んでみる。

例えば、最新のトヨタやホンダの自動車づくりから伝統的な京都の西陣織まで、どのようなものづくりにおいても、すぐれたものはそれ自体の「もの」の力によって「もののあはれ」を喚起せしめる。きれい、すごい、おみごと、と思わせる。「もの」は常に「こころ」にはたらきかけ、ゆさぶり、うごかし、「たましい」まで発動させる。この「もの」「こころ」「たましい」

### の関係性は如何？

\*\*\*\*\*

### 序論 モノ学の構築…鎌田東二

本書は下記三部仕立てで構成されている。

- 第一部) モノと気配とモノガタリ :モノの霊的位相 …物と霊との間を探求する霊的領域  
 第二部) モノと情緒とワザ :モノの者的位相 …物とワザ(技術・技法・芸術等)の関係する問題領域  
 第三部) モノと装置と知覚 :モノの物的位相 …物と知覚ないし感覚価値の問題領域

序論では、モノ学的位相を

- ①三つのエピソード(ウサギのぬいぐるみ/アラン島の石笛/一本さんの横笛)  
 ②モノと次元(超越・内在・包越)/影(陰・翳)/裏(ト・占)/奥(隠れ)/身(身体)/場(場所)/波動(響き)  
 の諸点から探り、モノ学構築へのアプローチの一端を示している。

- ・モノと次元 …宮沢賢治の童話『銀河鉄道の夜』、絵画『日輪と山と』
- ・モノと影 …日本書紀の「影媛」(かげひめ)
- ・モノと裏 …フリードリッヒの絵画『リューゲン島の白亜の断崖』
- ・モノと奥 …高野山奥の院、みちのく(道の奥)、後ろ戸
- ・モノと身 …「物実」(ものざね)、三種の神器
- ・モノと場 …フリードリッヒの絵画『山の上の十字架』、モノは場所の函数
- ・モノと波動 …空海『声字実相義』